

大山町観光戦略

令和3年7月
大山町観光課



1. 大山町の観光の位置付け
 - (1) 大山町総合計画における観光産業
 - (2) 町内産業としての観光
 - (3) 圏域における大山観光
2. 大山町観光戦略
 - (1) 観光戦略のテーマ
 - (2) 戦略の読み方
 - (3) 地域が目指すべき姿
3. 観光戦略から観光戦術へ
 - (1) 戦術の方向性～個々のアクティビティ・体験の充実～
 - (2) 取り組みの推進～町内拠点・コンテンツの連携～
 - (3) 基幹事業の推進構想～アウトドア環境整備による交流軸の構築～
4. 観光戦略の推進にあたり



1. 大山観光の位置付け

(1) 大山町総合計画における観光産業

◆ 大山町総合計画（未来づくり10年プラン）における観光産業の基本計画

⇒ 資源や人のつながりで観光や商工業を盛り上げよう

- ・ 大山町は山から海まで表情豊かな自然資源があります。
- ・ 各資源のいいところを掛け合わせて新しい観光メニューをつくります。
- ・ 人や企業・団体、さらには行政それぞれの得意なことを活かして幅広く大山町の魅力を発信します。

◆ まちの現状と課題

- ・ 豊かな自然環境や農林水産業の産業資源はもちろん、文化財などの歴史的資産が豊富にあります。
- ・ 大山町のシンボルである大山を主軸とした広域連携によって、様々なテーマを設定した体験交流プログラムによる体験型観光の展開を図ります。
- ・ 観光を担う組織・人材が不足しており、組織・人材の育成も求められます。
- ・ 商工業においては、個人経営の小規模な小売業が大半を占めており、近年、交通網が整備され、米子市近郊の大型店を利用する人が増え、町内の商店数が減少しています。
- ・ 消費者に魅力を感じてもらえる商店づくりや、多様化する消費ニーズへ対応するため、商工業の経営基盤の体質強化と設備改善、技術水準向上を図るとともに、引き続き商工会をはじめ各団体などと連携した取り組みを強化していくことが必要です。

◆ こうなったらいいな、を実現するために

- ・ 地域の資源やつながりを観光に活かします。
- ・ 体験型・交流型・滞在型観光が生まれやすい環境をつくります。
- ・ いつ行っても楽しいことがおこっている大山町を実現します。
- ・ 経営基盤の安定と経営体質を強化します。



1. 大山観光の位置付け

(2) 町内産業としての観光

◆ 大山町総合計画（未来づくり10年プラン）より

(6) 仕事

①産業別の就業者数

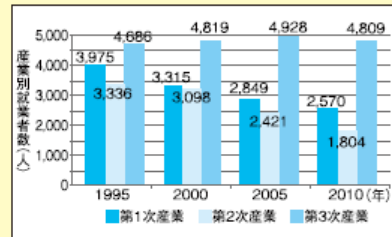
ここでは、町内の人々がどんな仕事に就いているかを見ていきます。
産業別の就業者数の内訳は、第1次産業* 28.0%、第2次産業* 19.6%、第3次産業* 52.4%となっています。第1次産業の割合が年々減少し、逆に第3次産業の割合が増加しているのが特徴です。

- * 第1次産業…自然の恩恵を利用した産業。主に農林業、漁業、鉱業など。
- * 第2次産業…第1次産業で生産した原材料を加工する産業。主に製造業、建築業、工業など。
- * 第3次産業…第1次にも第2次にも入らない産業。サービス業。主に小売業、運送業、飲食業など。

②農林水産業

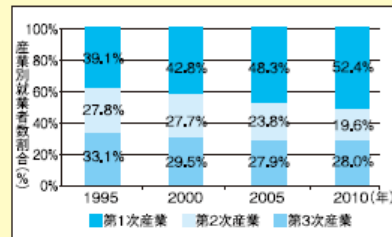
第1次産業の従事者割合を見ると、農業95.4%、林業0.7%、漁業3.9%となっており、農業にかかわる人の割合が圧倒的に高くなっています。しかし、農林水産業のいずれについても、従事者が減っている現状があります。
平成22年(2010年)には、農業にかかわる人の高齢化率が55.9%、平均年齢が65.3歳となっており、高齢化が進んでいることがわかります。

■産業別就業者数の推移



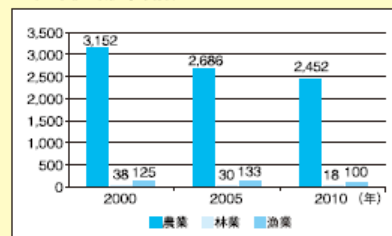
出典:国勢調査

■平成22年産業別就業者数割合



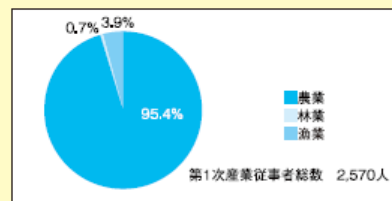
出典:国勢調査

■第1次産業従事者数



出典:国勢調査

■平成22年第1次産業従事者割合



出典:国勢調査

③商業

平成26年(2014年)に町内で開業している事業所の数は125、そこで働く従業者の数は621人です。事業所数、従業者数は減少傾向にあります。

■商業における事業所数、従業者数



出典:商業統計調査、経済センサス

④工業

平成25年(2013年)現在、工業関係の事業所数は21、そこで働く人の数は743人です。こちらも減少傾向です。

■工業における事業所数、従業者数(従業者4人以上の事業所)



出典:工業統計調査

⑤観光

大山周辺に観光に来る人の数は、平成26年(2014年)時点で127万人にのぼります。これは、県内における観光客数の12.6%を占めています。県内全体での観光客数は減少傾向にある一方で、大山町内の観光入込客数はほぼ横ばいをキープしています。

■観光入込客数の推移



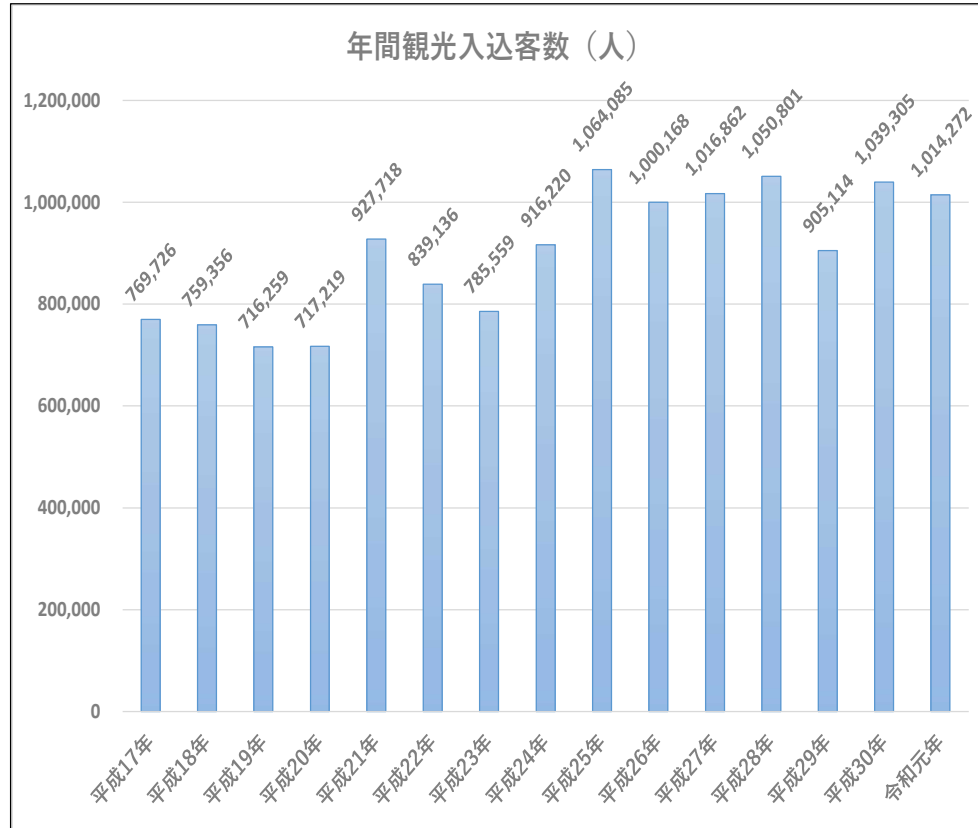
出典:鳥取県観光客入込動態調査



1. 大山観光の位置付け

(2) 町内産業としての観光

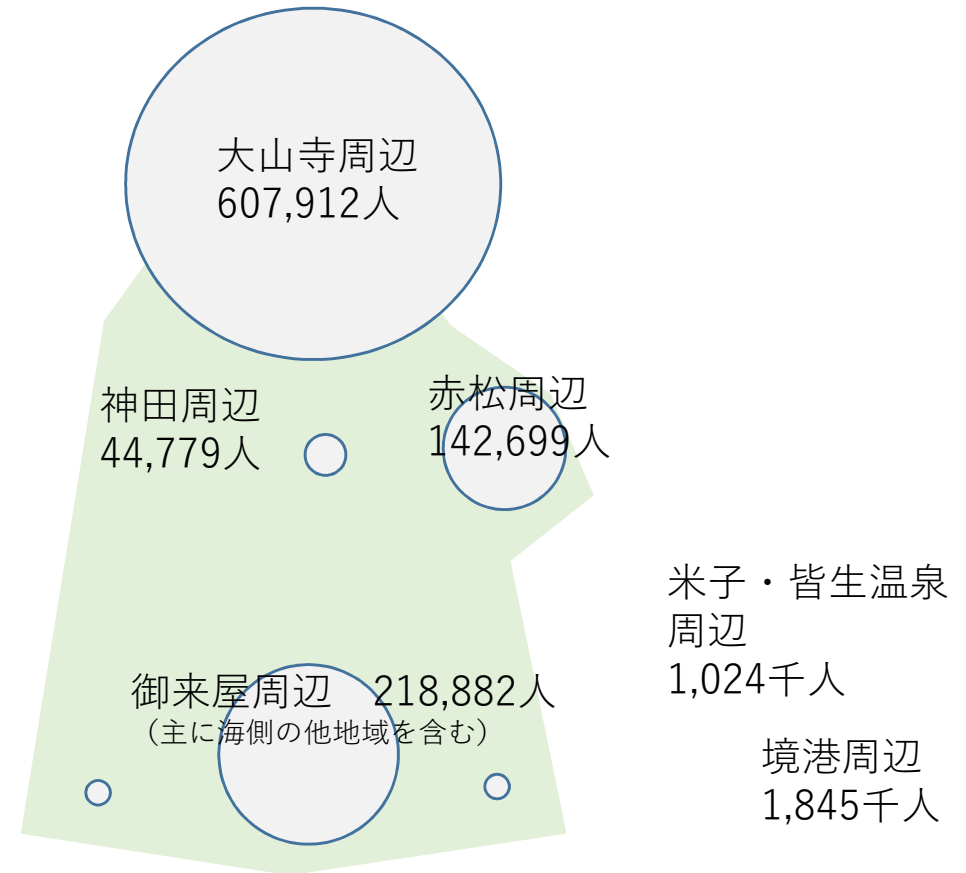
◆ 町内観光施設の年間入込客数の推移



(出典) 観光客入込動態調査より

平成17年769,726人 ⇒ 令和元年1,014,272人
町内主要観光施設において約24万人の増加

◆ エリア毎の入込客数の分布 令和元年度



入込客数の上位3つの観光施設 (令和元年)

道の駅大山恵みの里	162,041人
大山スキー場	118,165人
大山ナショナルパークセンター	96,269人



1. 大山観光の位置付け

(3) 圏域における大山観光

◆ 伯耆国大山開山1300年祭実行委員会

平成29年度から3年間にわたり大山圏域の様々な魅力をPRする取り組みを官民連携により実施しました。
(主な取り組み) 大山山麓の謎解き宝探し、大山の大献灯、ホーリートレイル(大山古道ウォーク)等

◆ 大山山麓・日野川流域観光推進協議会

平成31年4月1日に鳥取県中・西部圏域の市町村が一体となり、民間事業者との連携強化も図りながら、広域観光を推進することにより地域の活性化を目指すために設立されました。大山山麓・日野川流域のさらなる飛躍のため、連携体制を深めつつ、1300年祭を通じて醸成された圏域の盛り上がりや広域観光周遊施策を切れ目なく継続実施する組織です。

(主な取り組み) 大山開山1300年祭レガシー事業、インバウンド受入対策事業、大山る〜ぶバス運行事業等

◆ 大山隠岐国立公園満喫プロジェクト

日本の国立公園を世界水準の「ナショナルパーク」としてブランド化を図ることを目標に、8つの国立公園を選定し、先行的、集中的に取り組みを実施してきました。大山が目指すべき姿は、多彩な自然の恵みとアクティビティ、日本遺産などの豊富なコンテンツを活かして最大限の魅力を引き出し、自然と文化の成り立ちまでも含めて丸ごと満喫できる魅力ある国立公園です。令和3年度からの計画を再策定し事業が継続されます。

(主な取り組み) 大山寺周辺の公衆便所改修、野営場改修、登山道・避難小屋の改修等

**大山観光は国立公園が主軸で海側の観光資源を活用しきれていない状況です！
より持続可能な集客・消費のためにも山側だけでなく海側も含めた施策が求められます！**



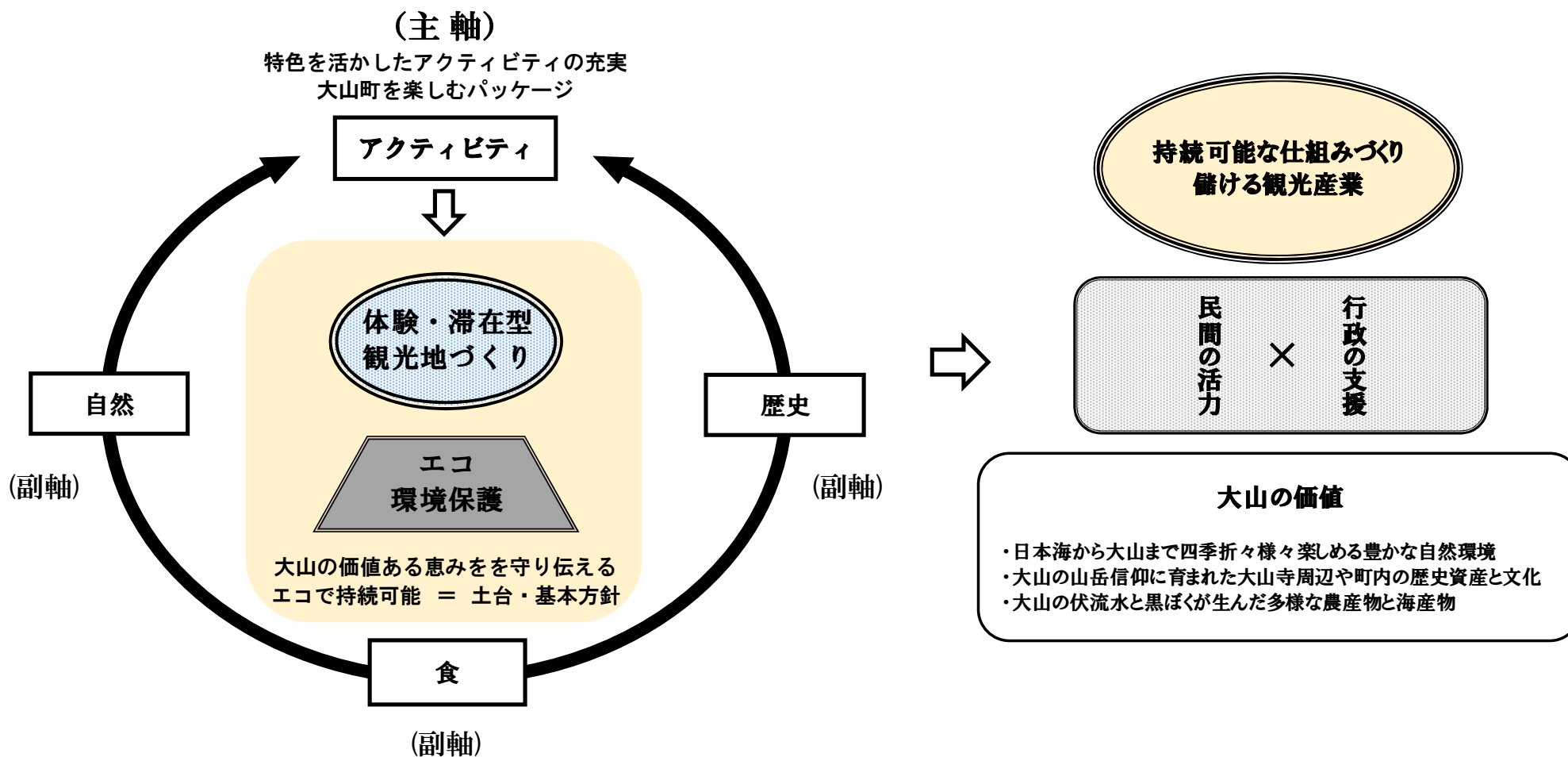
大山町観光戦略の策定
(観光施策の重点方針の決定)



2. 大山町観光戦略

(1) 観光戦略のテーマ

大山の環境に配慮し、大山の資源を活かしたアクティビティが楽しめる
持続可能な観光地域づくり



2. 大山町観光戦略

(2) 観光戦略の読み方

大山の①環境に配慮し、大山の②資源を活かした③アクティビティが楽しめる④持続可能な⑤観光地域づくり

① 土台となる自然環境

- ・大山の環境を破壊するような事業を縮小し、一方で環境を守るような持続可能な事業を推進します。
- ・大山でやるべき事業やイベントかどうかを検討して事業の支援を行います。

② 自然・歴史・食の磨き上げ

- ・アクティビティを構成する要素である3つの魅力を高め、さらに新たな価値も発掘します。
- ・多くの場面で食が欠かせない要素であるから、食の活用を視野に入れた施策を行います。

③ 多様なアクティビティの提供

- ・アウトドアアクティビティ（自然・スポーツ）を提供するための環境等の整備、支援を行います。
- ・体験型アクティビティ（食・歴史・文化）を提供するための環境等の整備、支援を行います。

④ 持続可能な仕組み

- ・自然や文化歴史等の資産を失うことのないよう保護と活用の視点を持ち施策を行います。
- ・一過性のものではなく観光事業者が経済的に自立して儲ける仕組みづくりを行います。

⑤ 地域全体を活用する観光

- ・町内の資源を有機的に結合しSDGsの観点を踏まえた町全域を周遊できる仕組みづくりを行います。
- ・周遊拠点や観光スポットにおける住民・事業者のおもてなし態勢の醸成や参加を支援します。



2. 大山町観光戦略

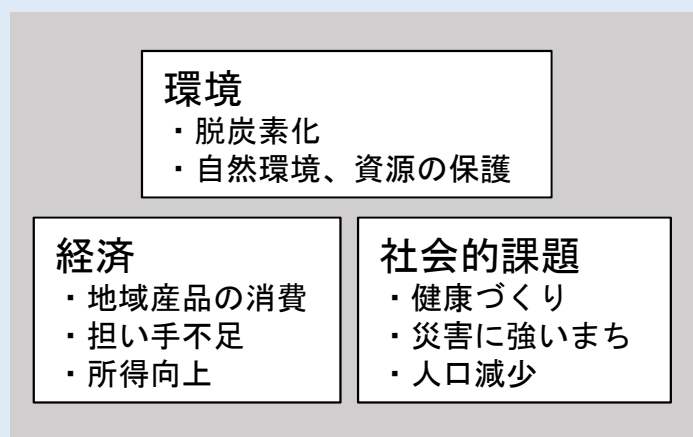
(3) 地域が目指すべき姿

【観光戦略の達成のキーワード】

大山の資源を活かした観光×地域課題の解決＝ 持続可能な地域 (SDGs未来都市へ)



相互に関連・複雑化する地域課題



観光フィールドの整備による地域の総合的向上



【大山観光が目指す姿】

「そのとき」は大山にいこう！豊富なフィールドの活用×アクティビティの充実
安心安全でファミリーも利用しやすいアウトドアフレンドリーな観光地域



3. 観光戦略から観光戦術へ

(1) 戦術の方向性～個々のアクティビティ・体験の充実～

【取り組み推進の視点】

観光客の滞在時間の延長・観光客の町内での循環・観光客の消費額の増大

持続可能な観光産業であるために、町内の多様な資源を活用して観光客の消費を喚起すること、また観光客が自ら体験することで楽しめるコト・モノを提供すること、これらの観点から観光地域づくりに取り組み、アウトドア・スポーツや歴史・文化の体験といったアクティビティを軸とした観光施策を推進していきます。

アウトドアアクティビティ

×

文化歴史アクティビティ

- ・観光資源の発掘と磨き上げ
- ・海と山を繋ぐ町内資源の活用
- ・ガイド（担い手）育成、受け入れ施設の充実

- ・町内観光の連携構築・体制強化
- ・観光サービスのワンストップ化
- ・特色を打ち出す誘客プロモーション

取り組み例)

- ・自転車を活用した町内周遊環境の整備
- ・遊休施設や遊休地を野営場や周遊拠点へ活用
- ・海が体験できる観光拠点づくり
- ・海側のアクティビティ造成
- ・防災・健康づくりとの連携
- ・観光客が消費することができる場所づくり

活用できる文化歴史の例)

- | | | |
|-------|--------|--------|
| ・農業体験 | ・豆腐作り | ・カメラ |
| ・漁業体験 | ・納豆作り | ・アート |
| ・写経体験 | ・味噌作り | ・音楽 |
| ・座禅体験 | ・そば打ち | ・縁の地巡り |
| ・木工体験 | ・おこわ作り | ・祭り・行事 |
| ・縄文体験 | ・料理教室 | ・民泊・農泊 |



3. 観光戦略から観光戦術へ

(2) 取り組みの推進～町内拠点・コンテンツの連携～

- ・ 大山町の海と山を繋ぐ周遊観光
- ・ 山の拠点の集客力・拠点機能の強化
- ・ 海の観光拠点機能の設定・充実

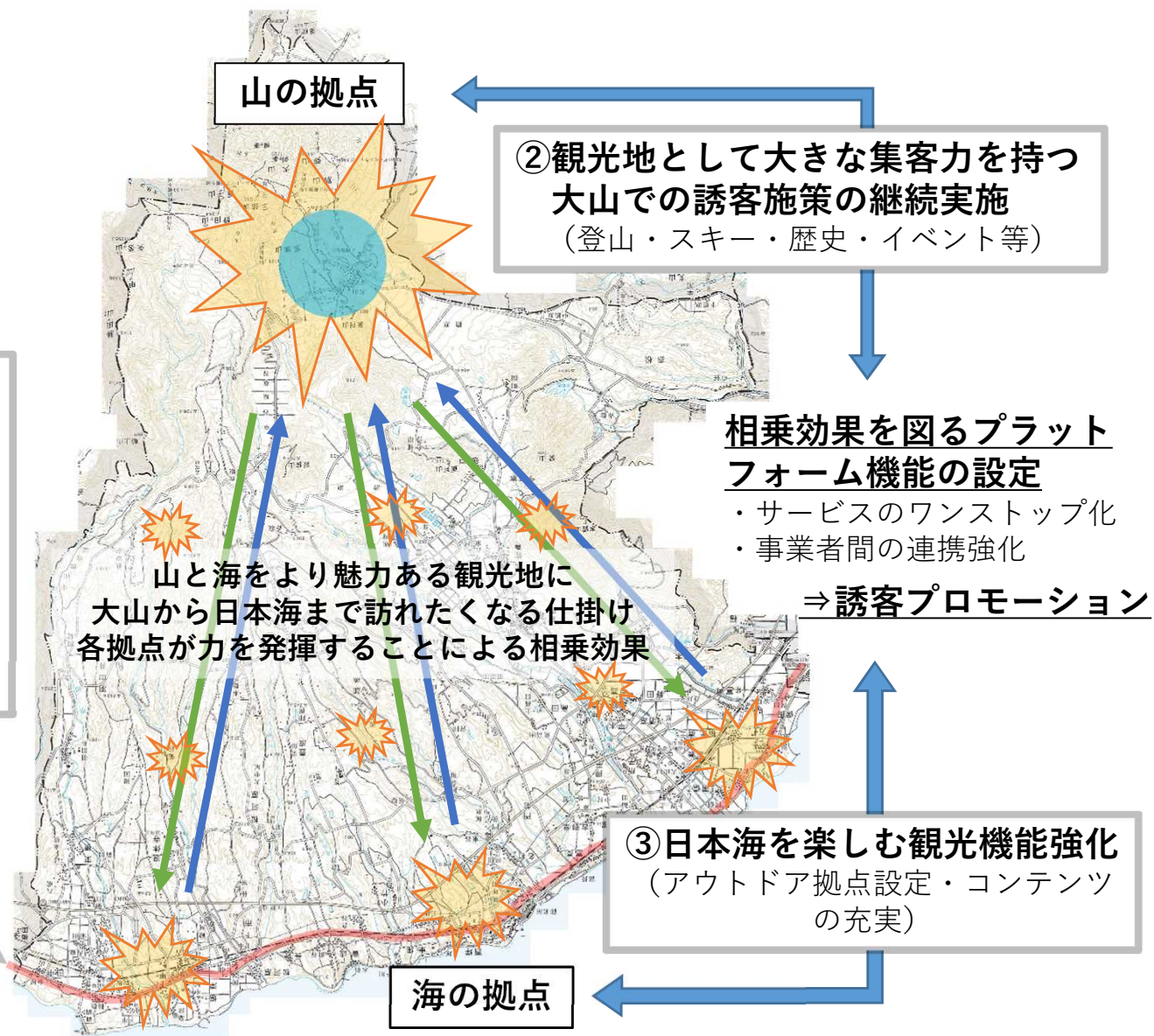
①各エリアでの自転車を活用した周遊促進

境港から浦富海岸までの全長140km
のロングルート（令和2年3月22日開通）
「鳥取うみなみロード」

↓
サイクリストの増加
海側での取り込み・山側への誘導

民間事業者等によるアクティビティ 関連事業の推進・新規展開

- ・ 歴史・文化アクティビティの充実
- ・ 受入施設、立ち寄り施設の充実
- ・ ガイド（担い手）の育成



3. 観光戦略から観光戦術へ

(3) 基幹事業の推進構想～アウトドア環境整備による交流軸の構築～

山のOD拠点（環境省所管：下山野営場・豪円山野営場）
下山野営場・豪円山野営場は、オートキャンプサイトの増設や管理棟の新築等、民間活力によるベースキャンプ場に再整備が行われています。（R4供用開始予定）

里山のOD拠点
（大山町所管：夕陽の丘神田山香荘）
里山のベースキャンプとして機能を充実させ、海・山を繋ぐ中継地点としてサイクリング拠点機能も併せ持つ滞在拠点に整備を図ります。

個々のコンテンツ・拠点を繋ぐエコな交通手段による周遊
自転車を核とした町内交流軸の構築

海の観光拠点（御来屋周辺での検討）
海側の観光拠点、ベースキャンプやサイクリストの中継基地としての機能を有するエリア整備、海のアウトドアアクティビティの充実に向けた支援により誘客を図ります。

～R2 事業構想の検討

- ・観光戦略のテーマ、特徴づける事業の検討
- ・豊富な自然の保護と活用、体験型観光の推進
- ・大山町の海と山を繋ぐ持続可能な周遊観光の推進

R3 Pick up! 大山林間MTBコース整備

夏季に利用が少ないクロスカントリースキーコースを常設マウンテンバイクコースとして利用できるよう整備を行います。
（加えて）
・E-MTBによるレンタサイクルのモデル事業を実施
・大山スキー場のグリーンシーズン活用策の支援

R4 Pick up! サイクリング環境整備

町内施設でのサイクリング拠点化支援、サインやブルーラインの設置による走行環境の整備を行い海と山の連携を図ります。
（加えて）
・環境保全等の課題解決型アウトドアイベントの実施
・観光サービスをワンストップで提供可能な体制整備

R5 Pick up! 海側の観光拠点整備

サイクリング拠点機能を持つ海の観光施設やベースキャンプの整備など、海側エリアの観光拠点の充実を図ります。
（加えて）
・海のアウトドアコンテンツ造成支援
・文化歴史体験のアクティビティ造成支援

R6 Pick up! 里山のアウトドア拠点機能強化

夕陽の丘神田山香荘を海・山をつなぐ中継地点として、サイクリングや里山体験等の教育的機能を備えたアウトドア拠点として再整備を図ります。
（加えて）
・食における大山ブランド（町内産品）の活用
・環境、健康、防災等とアウトドアの連携強化



4. 観光戦略の推進にあたり

大山山麓は、**海・里・川・山のすべてがコンパクト**にまとまっています。全国的に見ても**このロケーション**を有する地域は**数少ない**と言えます。

本町の観光戦略は、アウトドアと文化歴史の切り口で、**山から海まで一度に楽しめることを強みに**、山と海のそれぞれの特徴を活かして、観光客が体感しながら**うまく周遊できるよう機能を発揮**させることを狙いとしています。

大きな集客力を持つ**国立公園大山への継続的な誘客支援**はもとより、**海・里の観光資源の充実を強力に推進する**必要があります。

本町において観光戦略の推進に向けて構想する基幹事業を始めとする誘客施策は、**アウトドアと文化歴史の切り口**による**新たな客層を**呼び込み、これらを嗜好する消費者を民間事業者の皆さんが**確実に獲得**され、さらに**海から山まで町全体のリピートに繋がる好循環**が生まれることを目指します。

このためには、行政だけではなく民間事業者同士も連携しながら、**観光という手段を用いて地域課題の解決や地域の価値を高め、SDGsの視点を踏まえた町全体を挙げた持続可能な取り組み・協力が必要**になると考えられます。

大山の環境に配慮し、大山の資源を活かしたアクティビティが楽しめる持続可能な観光地域づくりの達成に向けてご協力をよろしくお願いいたします。

